

倉本教育長記者会見録

日時/令和5年12月20日(水)

17:00~17:20

場所/別館庁舎7階教育委員会室

【教育長からの話題】

- 1 学校の暑さ対策について
- 2 S-TEAM教育推進事業「探究チャレンジ・ジャパン」の開催について
- 3 今年を振り返って
 - (1) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行について
 - (2) 「北海道白滝遺跡群出土品」の国宝指定について
 - (3) 全国高等学校総合体育大会の開催について

【記者からの質問】

- 1 学校の暑さ対策のハード面について (STV)
- 2 今後のエアコンの設置について (北海道新聞)
- 3 札幌市内の道立高校における障がいのある生徒に対する不適切な対応について (北海道新聞)
- 4 「札幌聾学校の日本手話クラスの存続を求める」署名について (HTB)
- 5 札幌聾学校における日本手話クラスの教員の確保について (HTB)

【教育長からの話題】

はじめに、先週、北海道議会第4回定例会が終了しました。本定例会では、「学校の暑さ対策」や、「いじめ・不登校対策」、「教職員の働き方改革」など教育に関する課題について、多くの議論がありました。

また、道立学校の空調整備費等に係る補正予算案について審議いただき議決をいただきました。

この度の議会議論を踏まえつつ、引き続き、本道における教育の一層の推進に取り組んでいきたいと考えております。

それでは、私の方から2点お話をさせていただきます。

【資料1】

1点目は、学校の暑さ対策についてです。

この夏、熱中症警戒アラートが道内全域に発表されるなど、北海道の気候が変化していることを実感しました。本州並みの暑さとなってきたことを踏まえ、子どもたちの命と健康を守るため、ソフト・ハードの両面から暑さ対策に取り組んでいきたいと思っております。

まず、ソフト面の対策について、資料1の上段に記載されていますが、道立学校における夏季休業及び冬季休業を合わせた総日数の50日から56日への変更、暑さ指数が31℃を超えた場合、体育活動や部活動を「原則中止」とする取扱いの徹底、中体連等の関係団体に対する大会等の実施に当たり、熱中症対策に万全を期すことの要請、また、熱中症警戒アラート発表時の各学校における臨時休業の実施の検討などの暑さ対策を実施することとしました。

今後の対応としましては、各種会議の場などを通じて、改正等の趣旨を丁寧に説明するほか、中体連等との協議の場を設け、暑さ対策に関する検討を進めていきます。

次に、ハード面の対策について、資料1の下段に記載されていますが、安全安心な教育環境を確保するため、冷房設備のない全ての道立学校に空調設備や簡易型空調機器を整備します。

まず、施設の工事を伴う空調設備ですが、体温調節が困難な児童生徒等が在籍する特別支援学校25校の普通教室に各1台整備します。

空調設備については、今後も計画的に整備を進める予定ですが、来年、令和6年の夏に向け、表の下段に記載のとおり、工事を伴わない簡易型空調機器を児童生徒が一日の大半を過ごす普通教室に高校は各教室2台、特別支援学校は各教室1台、また、特別支援学校の寄宿舎の舎室に各1台整備します。

なお、記載していませんが、職員室等については、職員の健康保持の観点から、引き続き整備を検討する予定です。

道教委としては、各学校において、安全安心な教育環境を確保できるよう、引き続き取り

組んでまいります。

【資料2】

2点目は、S-TEAM教育推進事業「探究チャレンジ・ジャパン」の開催についてです。

令和6年2月1日、北海道大学を会場として、高校生や特別支援学校高等部の生徒が探究活動の成果を発表・交流する「探究チャレンジ・ジャパン」を実施します。

現在、各地域などで成果発表会を行っていますが、今後、代表に選出される道内28校のほか、道教委が依頼した道外8校がオンラインで参加する予定です。

本事業は、北海道、札幌市、北海道大学、株式会社ニトリホールディングスによる四者協定等により、関係機関からの御協力を得て実施しており、生徒の探究活動の成果発表における優秀校に対し、北海道知事賞など6つの賞を授与することとしています。

道教委としては、本事業を通して、生徒の探究的な学びを一層充実させる取組を推進し、生徒の多様な可能性を育み、将来の北海道を支える人材を育成していく考えです。

【資料なし】

最後に、資料はありませんが、今年を振り返って3点、お話をさせていただきます。

1点目については、新型コロナウイルス感染症が5月8日付けで5類感染症に移行され、これまで3年余に及んだ感染症への対応が一つの節目を迎えました。

道教委としては、この間における新型コロナウイルス感染症対策を振り返りつつ、知事部局と密接に連携を図るとともに、医師等の有識者をはじめ、市町村教育委員会や校長会、PTA等から御意見を伺いながら、今後起こりうる新興感染症対策等も含め、感染症対策への備えや学びの保障に向けた検討を進めているところです。

2点目については、今年の文化芸術関係のトピックとして、6月に遠軽町の「北海道白滝遺跡群出土品」が、道内で2件目の国宝として指定されました。

日本最大規模の黒曜石産出地から出土した、約3万年前から1万5千年前までの遺物であり、世界的に価値が高いと認められたものです。

この度の指定は、地域の皆様の御尽力と、長年にわたる多くの方々による学術調査及び研究が実を結んだものであり、改めて関係者の皆さまに敬意を表します。

この国宝の価値を知っていただき、学校教育や社会教育、さらには、観光振興や地域の活性化につなげ、広く普及・活用していくことが大切です。

これからも、貴重な文化財を通して、より多くの子ども達が北海道への愛着や誇りを育むことができるよう、遠軽町をはじめとした地域の方々と連携し、保存・活用に取り組んでまいります。

3点目については、今年全国的な行事として、7月から8月にかけて、本道で36年ぶりとなる全国高等学校総合体育大会、インターハイが開催されました。

7月22日に秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席のもと総合開会式を挙行し、7月21日から32

日間にわたり、道内 19 の市町において、道内外から約 3 万 6 千人の選手、監督等が参加し、競技種目別大会が開催されました。

連日熱戦を繰り広げた選手たちにとっては、持てる力と技を競い合う晴れの舞台となり、生涯の記憶に残る大会になったものと考えています。

また、大会の P R 活動をはじめ、総合開会式や競技種目別大会の運営などに当たった高校生は、合計で約 1 万 1 千人にのぼります。全国から訪れた多くの方々を温かいおもてなしの心でお迎えするなど、本道の高校生が成功の立役者となった素晴らしい大会でした。

私からは以上です。

【記者からの質問】

(STV)

学校の暑さ対策のハード面についてですが、全ての学校に空調設備を設置し、かつ、普通教室には簡易空調が 2 台、簡易空調ではないものが普通教室に各 1 台あるという認識でよろしいでしょうか。

(教育長)

資料 1 下段の右側に「空調設備」のイラストがありますが、部屋全体を効率良く涼しくすることができるよう特別支援学校 25 校に空調設備を設置する工事に着手したいと思っています。ただ最終的に使用できる時期については、工事の関係から令和 6 年度の夏までには間に合わないと思います。令和 7 年度の夏までには設置ができるよう工事を進めていく予定です。

また、特別支援学校では 25 校以外の学校についても段階的に空調設備を整備進めていきたいと思っています。特別支援学校の児童生徒は、体温調節が困難であることや自分の状況を言葉で伝えづらい児童生徒もいますので、先に重点的に空調設備を整備していきたいと思っています。

また今、申し上げました特別支援学校 25 校も来年の夏には間に合いませんので、その 25 校を含めたすべての道立学校の普通教室には、資料 1 下段の右側にある窓枠クーラー等を中心とした「簡易型空調機器」を設置します。

高校については各 2 台、特別支援学校については、教室が狭く、クラスの人数が少ないため各 1 台、また寄宿舎を持っている特別支援学校については、寄宿舎の舎室に各 1 台の「簡易型空調機器」を設置する計画です。これらについては、来年の夏までに間に合わせられるよう努めます。

(STV)

簡易型空調機器については、来年の夏ということですね。ありがとうございました。

(北海道新聞)

暑さ対策関連で、今後、道教委としては、全学校にエアコンの設置を目指すのでしょうか。どういうビジョンを描いているのか教えてください。

(教育長)

基本的には、全ての学校に整備をしていきたいと思います。ただ、高校に関しては、190校弱あることから、多額な予算が必要となるため、財政面からの平準化を考えていかななくてはいけないことも現実です。

老朽化や一定年数が経った施設については、修繕していく必要があるため、高校については、そういった大規模改造などのタイミングを捉えて、空調設備の整備も行っていきたいと思っています。

(北海道新聞)

いろいろ課題があると思いますが、道教委の考えとしては、全校にエアコンを整備したいということですね。ありがとうございました。

(北海道新聞)

札幌市内の道立高校で、知的障がいのある生徒に対する不適切な対応が相次いでいることについて、お尋ねします。

この学校の特別支援教育を担当している男性教諭が、医師が診断していない病名を記した資料を配布したり、保護者の同意を得ずに心理検査を行ったりといった問題が明らかになり、学校側も事実関係を認めて謝罪したと聞いています。

この件に関連して、生徒が入学する直前の4月3日に成績を「1」にする方法が書かれた文書も作成されていたことも明らかになりました。この生徒は実際に多くの科目の成績が「1」と評価されています。生徒の成績は、学習指導要領に沿って適切に付けていると学校側は説明していますが、教育委員会としてもそのような認識をされているのかどうか、教育長の考えをお聞かせください。

(教育長)

まず、学習状況に関する評価については、各教科・科目の目標の実現に向けた生徒の学習の状況を把握するために行うもので、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習

に取り組む態度」といった3つの観点から評価します。これらの評価については、学校が行うものであるため、教育委員会として、各学校が判断した評価内容について個別の見解を申し上げることはできませんが、学校はこうした評価の観点などについて生徒や保護者の方に丁寧に説明する必要があると思っています。

一方で、今、質問がありましたが、ある教員が特別な教育的支援が必要な生徒に関して、医師の診断の裏付けがない状況で自らの考えで病名を資料に記載し、それを教員間で共有したという不適切な行為があったと把握しています。現在、外部有識者を含めた調査のための会議体を設け、一連の事実関係を明らかにすべく調査を進めています。この中で、今回の評価の在り方に関する高校の対応や考え方などについても調査していきたいと考えています。

(HTB)

札幌聾学校の問題について、11月24日に札幌聾学校での日本手話クラスの存続を求める3万2619筆の署名が教育長と知事あてに提出されましたが、これについての教育長の受け止めをお伺いさせていただきます。

(教育長)

過日、札幌聾学校の日本手話クラスの存続を求める署名をいただきました。多くの方々が、日本手話を活用した教育活動に思いを寄せられていると改めて感じたところです。

要望にある日本手話クラスの存続に関しましては、札幌聾学校の児童生徒等、そして保護者の方々の意向を踏まえて、日本手話等を活用した「二言語」による指導グループを設けて指導していますが、引き続きこうした取組を行っていきたいと思います。

(HTB)

関連してですが、署名の中に、教員の定年退職が続き、教員の補充をしないことが決まったり、教員の確保を要望しても聞き入れないなど署名提出に至った背景事情が書かれていたかと思いますが、この点については、どのように受け止め、今後どのように対応していきたいと考えていますか。

(教育長)

個別の御指摘一つ一つは、意図が把握できないところもありますが、今回の要望については、日本手話クラスを存続して欲しいということで、そのためにも教員を確保して欲しいということだと理解しています。

日本手話クラスの存続については、先ほど申し上げましたが、そうした取組を担う日本

手話を活用した指導ができる教員を札幌聾学校に配置するとともに、研修等を通じて専門性の向上を図ってきましたので、今後も取り組んでいきたいと考えています。

この文章については、読みやすいよう、重複した言葉づかい、明らかな言い直しなどを整理して作成しています。

(文責 教育政策課)